

第3種郵便物認可

小中校47%に口腔崩壊の子

札幌歯科医師会 3市1町調査 経済的困窮が影響

虫歯10本以上／未治療の歯

札幌歯科医師会が札幌など3市1町の小中学校を対象に調べたところ、虫歯が10本以上あったり、歯根しか残っていない未治療の歯が何本もあったりするなど、食べ物の咀嚼が難しい「口腔崩壊」の子供がいたと答えた学校が47・6%に上った。経済的な困窮や、時間に余裕がなく治療できないことなどが主な理由とみられる。虐待の一つ「ネグレクト（育児放棄）」が懸念されるケースもあり、同歯科医師会は警鐘を鳴らしている。（杉野英介）

札幌歯科医師会が管轄区域の札幌、江別、石狩の3市と当別町の学校を対象に、初めて調査した。定期検診を毎年行う歯科医389人に8月に質問用紙を送

よると2012年以降、7府県で保険医協会が同様の調査をしており、口腔崩壊の割合が最も高かったのが宮城県の56・7%。最低が兵庫県の29・9%だった。一方、文部科学省の17年度学校保健統計では、12歳

口腔崩壊の子供がいた学校の割合(%)

| | |
|-------------|------|
| 札幌など(2018年) | 47.6 |
| 宮城県(14年) | 56.7 |
| 長野県(12年) | 44.5 |
| 大阪府(16年) | 43.2 |
| 岩手県(13年) | 42.9 |
| 三重県(15年) | 34.5 |
| 山口県(15年) | 30.9 |
| 兵庫県(17年) | 29.9 |

け落ちている子供がいる。虫歯できちんとかめないと栄養が十分に取れなくなり、全身に悪影響が出る」と指摘している。

（中学1年）の永久歯の平均虫歯数は年々減り、0・82本と過去最少となった。歯科検診は学校保健安全法に基づいて毎年6月までに行うことになっており、この3市1町の各校は、検診結果を全児童生徒の家庭に文書で通知している。ネグレクトが疑われる場合は、学校歯科医が、校長か養護教諭に連絡するとい

調査を担当した札幌歯科医師会の高橋修史理事は「子供の歯の状態は改善しているが、その流れから抜